

令和3年7月1日

小野寺委員

私は、昨年6月の本会議の代表質問で、コロナ禍で影響を受けた文化芸術への支援についてということで知事にお伺いしました。多くのアーティスト、そしてその周辺で仕事をしている人たちは、コロナ禍で仕事の間、活動の間を奪われただけではなく、当然収入の道も断たれていて、その困窮の状況は想像に難くないということで、いろいろお話を伺ったのです。

彼らの経済的困窮が、彼らをその分野から離職させてしまうことにもつながるし、その世界で活躍することを夢見てきた若者たちが、発表の機会がないということでその道を諦めてしまうことにもつながって、ひいては文化芸術の衰退を招くのではないかという懸念があったものですから、その場ではいろいろとお聞きしました。興行にしても、人数制限を加えられると採算が取れなくて成り立たないなど、様々な懸念を知事にお伝えしながら質問したところです。

はじめに、この1年半余り、新型コロナウイルスの影響によって、文化芸術関係の方にどういう影響があったのか、県として把握されていますか。

文化課長

文化課では、令和2年11月から12月にかけて、文化芸術活動団体等に対してアンケート調査を実施し、171の団体等から回答を頂いたところです。

その結果について、令和2年3月から8月の間において、実施を予定していた公演等のうち、全てを中止または延期したと回答があった団体等は72件、約42%、予定していた公演等のうち、75%以上を中止または延期したという回答を頂いた団体等は49件、28.7%あり、合わせて約7割の方が大きな影響を受けています。

また、同じく、昨年3月から8月に、前年同期と比べて収入が減少したと回答した団体等は、回答があった171件のうち154件、9割にも上っているところです。

こうしたアンケート結果を見ても、多くの文化芸術団体の公演等が中止または延期となり、活動の場がなくなるとともに、収入も大きく減少するなど苦境に立たされていることを認識したところです。このことから、先ほどの答弁の繰り返しになってしまいますが、どのような支援が必要かという質問に対して、補助金、給付金という財政的な支援や、活動の場が必要だという意見が多かったというところにつながったものと考えています。

小野寺委員

昨年本会議での私の質問に対して、知事から3つのステップで様々な支援をしていくという御答弁がありました。1つ目は、さきにお話も出たバーチャル開放区のような取組、2つ目は、新しい生活様式の下で行う様々な活動に対する補助でした。

確かにそれはそれでよいのですが、今、望月委員の質疑の中でもありましたが、例えば、新しい生活様式に対応した取組、東京2020大会を見据えた取組、あるいは新規性が高いなど、何か、よっぽど新しいことをしないと、なかなか

補助を受けられないのではないかと、これまでと同じことをしては駄目なのかというような疑問も私の中にあるのです。

それは私の感想に過ぎませんが、先ほどマグカル推進事業補助金に関する質疑の答弁、また報告資料の中で、一次募集で62件応募があったということです。二次募集も約3週間余り募集期間あったが、19件に減っているのは、何か理由を分析されていますか。

文化課長

私の考えにはなってしまうのですが、初めは緊急事態宣言が3月までありましたので、どうしてもその時期が続くと考えられる場合には、皆様、大きな事業については、若干臆病になるのではないかと思います。それが解除されれば少し増えるかと思込んで二次募集をかけたのですが、今はまん延防止等重点措置期間中ということで、観客を100%自由に入れて、安心して行うという環境にはないところがあるかと思います。

また、ありがたいことに、国でも、普通、補助金と言いますと、3分の1、2分の1の補助率が多いのですが、10分の10という、かなり支援していただける補助制度をつくっていただきまして、そちらの利用も進んだからではないかと分析しています。

小野寺委員

今、何でそのことをお尋ねしたかということ、この分野では様々な活動が幅広く展開されているので、できるだけ広く支援をしてもらいたいと思ったわけです。先ほど、いろいろなアンケートなどで声が出てきたとありましたが、私も実際にそういう方々とのお付き合いがあってお聞きするのは、確かに補助金、経済的な支援も大事ですが、発表の場もなく、稽古するに当たって、スタジオを借りるにもお金がかかるし、製作費もかかるという中で、どうしても心が折れるような場面もあるということです。

少しでも彼らがいろいろなことを発表、活動できる場を用意して提供することが、県の一つの大きな役割ではないかと思うのですが、そうした取組として具体的にはどのようなことをされてきたのでしょうか。

文化課長

県では、活動の場の提供として、先ほど答弁したバーチャル開放区などの様々な取組を行ってきています。演劇やダンスの舞台公演等の機会を提供する取組としては、マグカルシアター、かながわ短編演劇アワードといった事業を行ってきました。

マグカルシアターは、公演を行いたい個人や団体に、神奈川県立青少年センターのスタジオHIKARI、かながわアートホールを公演場所として無料で提供する取組です。

かながわ短編演劇アワードは、全国から公募した演劇団体が30分以内の短編の演劇を上演し、公開審査によって、アワードを競うものとなっており、神奈川の演劇人の技術の向上、創作活動の活性化を図る場となっています。

小野寺委員

今、マグカルシアターの話が出ましたが、ある意味で草の根の演劇活動を行っている方々にその場が与えられるのではないかとというイメージがあるのです

が、このコロナ禍の中で、マグカルシアターの利用状況はどうなっていますか。
文化課長

マグカルシアターについては、昨年度はこれまでで最大となる41公演を予定していたのですが、新型コロナウイルス感染症の影響で、令和2年の4月から8月に青少年センターが休館したことや、劇団自らが中止をせざるを得ないと判断されたことにより、実際に実施した公演は14公演となっています。

また、実施した14公演の中には、無観客で映像配信といった形で実施したのもあり、それは5公演ほどありました。

小野寺委員

中には、それをDVDに焼いて販売することで、何とか少しでも活動資金を確保しようとしている人たちもいましたから、それでもかなり、コロナ禍の影響で減っていることは理解しました。

先ほどのアンケートの結果、どのような声があったかはお聞きしたのですが、例えば、このマグカルシアターに関わった劇団などの方々から、具体的に県に対してというより、このマグカルシアターに対してでもよいのですが、取組に関してどのような意見、要望が出ていますか。

文化課長

マグカルシアターに関しては、舞台公演の制作に当たっては、会場費が多く割合を占める場所がありますので、特に資金力の弱い団体にとっては、こうした無料で貸す発表の場を設けられることはほかにない機会です。そうしたところはありがたいという声と、1週間単位でしか借りられないので、公演日程をもう少し長期でできるようにしてほしい、もう少し貸してほしいといった御意見も頂いています。

小野寺委員

ということは、要は本番、公演の前に様々稽古が必要ではないですか。そういったことにもその場は提供しているということですか。

文化課長

本番前の練習についても、一定期間、無料で提供するという取組をしていますので、コロナ禍において休館したときには、ぜひ練習で使わせてほしいという要望も頂いています。

小野寺委員

派手な取組ではないが、すごく大事だと思うので、これは息長く、しっかり続けていただきたいと思うし、それこそコロナ禍が収束した後でも、こういうことはすごく大事なことで、そこはお願いしたいと思います。

次に、先ほどお話を頂いたかながわ短編演劇アワードについてお聞きします。たしか以前は、かもめ短編演劇フェスティバルという、20分の作品をつくっていたと思います。これが2019年までで、その後、かながわ短編演劇アワード2020と2021を行ったということでしょうか。その理解をしたいので、御説明いただけますか。

文化課長

短編演劇を神奈川から発信していこうという取組は、委員のおっしゃるとおり、もともとかもめ短編演劇フェスティバルなど、いろいろな名前で行ってお

り、かながわ短編演劇アワードという形に変えて、大きくマグフェスという取組の中で始めたのが2年前からになります。そのときに、20分という時間も30分以内とするなど、制度については毎年度少しずつ見直して、リニューアルしています。

小野寺委員

2年前からということは、2019年度もあったのですか。

文化課長

2019年度の3月、令和2年3月から、この形でやっています。

小野寺委員

そうすると、これを始めた時には既に新型コロナウイルス感染症の影響が出ていた時期ですか。

文化課長

新型コロナウイルス感染症は令和2年1月ぐらいに横浜港沖でクルーズ船から県内で発生というお話もありましたので、令和2年2月には、県で基本的にはイベント等は中止という方針も出ており、影響を受けている中での開始となっています。

小野寺委員

始めていきなり新型コロナウイルス感染症のあおりを受けてという事業だと思えるのですが、コロナ禍で、以前と様々に違うことも考えなければいけないようになったと思うのですが、その辺り、どのように工夫しながら運営をされてきたのか教えていただけますか。

文化課長

令和2年3月当時については、基本的に多くの公演が中止、延期を決定することが多くありました。そうした中においても、この短編演劇アワードの公演で、公開審査ができないかということで、いち早く、無観客、ライブ配信という仕組みを取り入れ、切り替えて何とかできるようにしたところがあります。

また、今年は、令和3年3月の公演も同様に、無観客、ライブ配信という形で実施しています。視聴数については、瞬間最大で200名ぐらいの方に見ていただいております、K A A Tの大スタジオが約200名という定員ですので、満席で入ったとして、同じぐらいの方に見ていただけたのかではないかと考えています。

小野寺委員

様々に文化芸術振興について取組がされていると思います。先ほど触れた文化芸術活動の支援でいろいろな補助金も出しているということも分かりましたが、何で今、あえて、このマグカルシアターや短編演劇アワードのことをお尋ねしたかということ、次の文化芸術、演劇の後を担っていく世代の人材育成につながっていくと思ったのです。

先ほどもマグカルシアターはぜひ息長くとお願した後で、再度の問いになってしまうかもしれませんが、今後、マグカルシアター、あるいはかながわ短編演劇アワードをどのように進めていこうと考えているか教えてください。

文化課長

マグカルシアターについては、県立青少年センターのスタジオHIKARIに加え、令和2年度から新たに拠点として追加したかながわアートホールも活用して、より多くの若手の舞台芸術団体の方に発表の場を提供していきたいと考えています。

また、かながわ短編演劇アワードについては、優勝した団体から、目標にしていたのでうれしいという声も頂いていますので、今後も特に若い演劇を志していらっしゃる方々に、大会に出たいと思わせるような魅力的な大会となるよう、参加者団体数などの増加も図り、大会の質を一層向上していきたいと考えています。

こうした発表、活動の場を提供して、人材育成を進めるとともに、本県の舞台芸術人材の技術の向上、創作活動の活性化を図って、文化芸術全体の振興を進めていきたいと考えています。

小野寺委員

大きな話になってしまうかもしれないのですが、今コロナ禍で財政が傷んでいますし、そういう時代になると、どうしても文化芸術は不要不急と見られて、予算も削減されていく傾向があると思うのですが、事実、これまで議会でもこれはカットでよい、聖域なき削減というような話になると、文化関連予算から削減すべきだという議論が相当出てきます。

ただ、戦後、本当にお金も物もないときに、近代美術館、音楽堂を全国に先駆けてつくった神奈川県のパライドというものがあると思うので、大変厳しい状況下ではありますが、ぜひ文化芸術振興の予算を国際文化観光局長にもしっかり確保していただいて、今後の必要な事業を推進していただきたいと要望させてもらいます。

質問を変えます。今度はオリンピックについてお尋ねします。これまで、さきの会派の議論の中で、重要なことが様々に議論されてきました。観戦について何点かお聞きしたいのですが、野球やサッカーと違って、セーリング、自転車のロードレースは観戦するにも工夫がいる種目だと思うのです。基本的に観戦の形を決めるのは組織委員会などだと思うのですが、本県としても、しっかり工夫をしていく必要があると思っています。

せっかくセーリングや、自転車のロードレースも自転車コースとしては一部かもしれませんが、本県に関わることになります。神奈川県が舞台になるのに、結局よく分からなかった、つまらなかったと言われてしまうと、今後の普及にも関わってくると考えています。

ヨットの場合は、基本的には上空から撮影した映像をスクリーンなどで見るという方法になるかと思います。岸から見ていると、多分ヨットレースは何が何だか分からないので、そういう形になると思うのです。江の島の会場では、観客の方々はどのような形でレースを見るのですか。

セーリング課長

セーリングの観客席からの観覧について、まず江の島の海の上ですが、観客席からレース海域として6か所海面がありますが、一番近い海域については肉眼で見ることが可能で、この海面は主に決勝戦で使われます。それ以外の部分

は遠く、陸から見るができないということで、それ以外の部分も含め、基本的にはヘリコプターや船の上などからカメラで映像を撮り、それを大型ディスプレイに投影して、観客席から映像を見るといった形になります。

小野寺委員

ただ、経験上、例えば上空から捉えた映像でも、ヨットレースのルールなどをよく知っている人ではないと分かりにくいのです。そうしたところの工夫が必要だと思うのですが、県として何か考えていることはありますか。

セーリング課長

会場内の映像は組織委員会が運営しますが、県としてという御質問ですので、そこを除きまして、私ども県の取組だけ申し上げます。

県では、ライブサイトができなくなったこともありますが、テレビ中継もない中で、インターネットでの映像の中継を、組織委員会から送られてきてくれた放送を使いながら行います。私どもはその映像をより分かりやすく御覧いただくために、例えば、毎日見どころを動画で放映する、レースを開催しているときにツイッターなどを使って、今の状況を解説するといった、放映を我々がサポートする形での取組をできないか考えています。

小野寺委員

映像上の工夫は我々が手を出せるところではないですから、それをどのように分かりやすくするかが必要だと思います。

次に、ロードレースについて伺いたいのですが、これはまだ実施されることを知らない人も結構いるのが実態だと思うのですが、どのように周知していますか。

オリンピック・パラリンピック課長

ロードレースについても、これまで県内で開催される他の3つの競技とともに、チラシや県のホームページなどで周知を図ってきました。また、組織委員会や相模原市では、横断幕やのぼりをロードレースのコース沿いに設置することや、パンフレットを作成し、相模原市内の商店街に配架するなどして、周知を図っています。

また、オリンピック開催直前の盛り上げとして、県のたより7月号の企画面に、改めて4競技の周知を図るとともに、タブロイド判のオリンピック広報紙を作成して、県内の中学校、駅、銀行等に配布して周知を図っていこうとしているところです。

小野寺委員

これについても観戦についてお聞きします。先ほど伺ったセーリング競技は、提供される映像を見る、あるいは実際に会場に行って、岸から近いところで展開されているレースを見るという大変限られた観戦方法です。しかし、ロードレースは原則公道で行われます。これに関しては、例えば、箱根駅伝での場合は、沿道に出ていって応援するなどの形がありますが、何せ今回はオリンピックですから、様々な制約もあると思うのです。沿道で観戦をすることはどれくらい認められているのですか。

オリンピック・パラリンピック課長

ロードレースに限らず、マラソンなど公道で行われる競技について、このコ

コロナ禍において、沿道でどのような観戦方法が取れるのかについては、今、組織委員会において検討しているところと聞いています。

当初、相模原市では、パブリックビューイングなどでレースの経過を見つつ、会場の近くへ選手が到着したのに合わせて沿道で応援することなどが想定されていたと聞いています。しかし、コロナ禍に適した新たな観戦方法として、リモートで応援していただけるよう、インターネットで配信される動画でコースを御案内する方向で今は検討していると聞いています。

小野寺委員

今、インターネットで配信されるとお聞きしたのですが、例えば、自転車にしても、先ほどお聞きしたセーリングにしても、陸上競技等ほどテレビでリアルタイムに放映されるのはなかなか期待しにくい種目だと思っているのですが、その辺りについて、今おっしゃったインターネットで配信されるものは公式映像と捉えていいのですか。

オリンピック・パラリンピック課長

オリンピックについては基本的に全ての競技がリアルタイムでインターネット放送がされると聞いています。

小野寺委員

それは、g o r i n . j p というものですか。

オリンピック・パラリンピック課長

はい、そのとおりです。

小野寺委員

それには何か解説が入らないのでしょうか。

オリンピック・パラリンピック課長

そのように聞いています。ただ、例えば、現在の順位が表示されるかといったところは競技によって違うようでして、必ずしも全ての解説がないというわけではないようには聞いています。

小野寺委員

スポーツバーの背景に流れているような映像だけだと、なかなか様子がかめず、困る人もいますから、今後、もう日が迫っていますが、何らかのできる限りの工夫をして、その画像を見た人が少しでも内容を把握できるような資料も一緒にあるとよいと思います。

これは、沿道以外で近くで見るとすると、多分、スタート地点やゴール地点は当然人気があるという話ですか。

オリンピック・パラリンピック課長

ロードレース等については、ゴール地点等では、今後、観客をどのようにするかということには関わってきますが、そのように聞いています。

小野寺委員

最後に、学校連携チケットのことをお聞きします。かなり多くのキャンセルが発生していると報道などで聞いているのですが、県内のチケットの当初の予定数とキャンセルの状況を確認させてください。

オリンピック・パラリンピック課長

学校連携観戦チケットについては、当初、大会延期前の令和元年9月の時点

で、約 10 万枚のチケットの購入希望がありました。その後、大会の延期後、令和 3 年 1 月上旬に、キャンセルの状況、購入の動向について再度照会があり、その時点では約 1 万枚のキャンセルが出ている状況です。購入希望は約 9 万枚という状況でした。

さらに、6 月に再度のキャンセルの受付がありました。このとき、新たに 5 万 5,000 枚のキャンセルがあり、現在、最終的な今の時点では、約 3 万 5,800 枚のチケットの購入が予定されている状況です。

小野寺委員

様々な理由でキャンセルになっていると思います、それは残念ですが、ただ、今の新型コロナウイルス感染症の状況を考えると、やむを得ないかとは思いますが。

人流の抑制、あるいは密にならないような観戦の方法など、いろいろなことを考えないといけない中で、観戦を安全に楽しむのは難しいところでもあるのですが、オリンピックですから、世界のトップクラスの選手が来て、その活躍を目の当たりにしたいと思っている県民の方は多いと思います。様々なオフィシャルな映像をしっかりとカバー、サポートするような工夫も県としていただいて、皆様の心に残る大会になるよう、残り少ない期間ですが、努力を重ねていただきたいと思います。

また、セーリング競技に関しては、これは他会派の本会議の一般質問の引用で恐縮ですが、レガシーということ言うと、セーリングセンターの活用、ジュニアセーラーの育成、教育にするなどという話が出てきました。ただ、その前に、機運の醸成はとても大事だと思っています。セーリングは 1964 年の大会と比べれば、大分経済状況、日本の国力も違いますが、それにしてもセーリングに対しての敷居はなかなか低くならないということが実感としてあるのです。サラリーマンでも、学生でも、ヨットを、それは大小いろいろありますが、持って楽しめるということが、このオリンピックを機会に、神奈川県内に定着するとよいと思っています。

これだけ長い海岸線を持っている県においても、たしか高校にヨット部があるのは私立の 4 校ぐらいなのです。他の県を見ると結構県立、公立の高校でヨット部を持っていますし、結構強豪校があると思います。そういう意味では、この神奈川県がそうしたところで全国の雄となるということは、一つのレガシーとなるのではないかと思いますので、その取組をお願いして、私の質問を終わります。